

第3回 京田辺市複合型公共施設整備基本計画検討懇話会 議事録要旨

<施設全般について>

- 過去の議論の中から必要最小限に絞られた案と見受ける。最小限がこれで良いかはよく考えてほしい。防災関連について、どんな災害が起こるか予測不能な中、施設としてどういう準備をしておけば、いざという時に役立つかは慎重に検討してほしい。
- 2階にこども関連機能を設置するには、ベビーカーへの配慮が必要なためエレベーターの設置は必須。ベビーカーの待機時間や、また車椅子の方の利用もあるため、複数基設置してほしい。
- 震災時、図書の落下等2次被害を発生させない工夫を設計段階において検討してほしい。
- 防災計画等との調整もしてほしい。物価高騰を受けて計画を縮小する必要があり、すべての要望を含めることは難しいと理解するが、出た意見を参考に、今後、設計段階において検討してほしい。

<ホール機能について>

- 客席から舞台へは、車椅子で上れるよう、動線のバリアフリー化について工夫をしてほしい。

<創造・学習機能について>

- ホールと隣接する会議室等の予約について、全館利用などができるよう、予約システム等運用面について配慮してほしい。

<図書館機能について>

- 対面朗読室と学習室について重ねづかいだと、動線が込み入ることが想定されるので、大小で会議室を分けるなど、配慮していただきたい。こども、ヤングアダルト、一般利用者ではそれぞれで賑やかさが違うので音環境も検討してほしい。図書館の規模については一般的だと考えられるが、今後、電子書籍の利用が増え、蔵書数を減らすことも想定されるので、蔵書数を減らし、電子黒板や電子絵本の導入など、利用の変化への対応を検討してほしい。動線、音環境、将来展望といったことは、設計の時でないとな取り入れられないので、設計へとつなげてほしい。

<共用部について>

- ひろば機能について、靴を脱いで利用できるスペースを要望として付け加えたい。ミライロの事例から、こども達は利用時間が集中する傾向があり、靴を脱いで利用できるスペースがあると、人数や年齢を気にすることのない利用が可能ではないか。
- 当初からひろば機能を大切にするというコンセプトだったが、イメージ図ではひろばが通路の様な形状となっており、市民が集ったりすることを考えると、カフェを中心とした空間にするのが良いのではないか。
- コンセプトとして広場を重視するということを念頭に、設計段階において検討してほしい。
- ひろばについて、どういう使い方を想定するか、そのあたりも計画に入れていただきたい。

<事業手法、スケジュールについて>

- 図書館は、法令上教育機関ということもあり、民間委託を行うことに懸念がある。
- 事業手法を検討している中で、オペレーションから出発していくということだが、一般的に、民間業者が受けた場合においては、長期計画が立てにくいというのがデメリットとして考えられる。将来どのような形で図書館を運営していくのか、従来型の図書館で良いのかどうかという点も検討してほしい。場合によっては、設計段階においてオペレーションを関与させるため、それに関わる会社があれば委託を考えるというのが良いのではないか。
- 市の財政的には民間の資金やノウハウに頼らざるを得ない状況。市として、はじめに手法ありきではなく、望ましいものを多角的に判断していったほしい。
- 設計、建設、運営等の委託会社をどう決めていくのかも非常に重要。

<その他>

- 複合型文化施設ができて、さらに市民活動が活発になって、市の品格が上がり、住みよいまちにならないといけない。複合型文化施設を使って市民がいろいろなことができるよう、市の予算面においても支えていただきたい。

以上。